

DX+

クラウド型ストレージによる
ログ蓄積・活用で管理の
煩雑化を解消



Theme



Use Case



Reference
Architecture





テーマ / Theme

ビジネスを加速させるための取り組みをご紹介

クラウド型ストレージによる ログ蓄積・活用で 管理の煩雑化を解消

コスト削減

セキュリティ向上

課題 / Issue

ログ管理が煩雑化、ログ保存にかかるコストが増大している

従来の社内に閉じたシステムとは異なり、クラウドの利活用、テレワークが普及してきた現在では企業システムの監視領域は拡大する一方である。クラウドおよびオンプレミスで稼働するサービスの監視には、サービスごとに提供される監視ツールを使用するのが一般的だが、サービス数の急激な増大により、さまざまな課題が表層化しているのも事実だ。

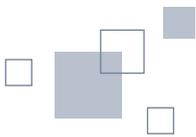
サービスの監視に使用する監視ツールの数が増加に伴い管理が煩雑化しIT部門の稼働が逼迫している。サービスの監視ツールごとにログの最大保存期間が決まっており、希望する期間のログを保存できない場合がある。保持しなければならないログが増加し、ログの保存にかかるコストがかさむなどである。もはや、従来のようなオンプレミス環境でのログ管理では、これらの課題を解決するのは困難だ。

概要 / Overview

クラウド型ストレージへの移行でログ管理を最適化

サービス増加に伴う管理ログの増大に迅速に対応する手段の一つが、従来のオンプレミス環境から脱却し、安価なクラウド型ストレージに切り替えることだ。クラウド環境であれば使用した容量に対して課金される料金体系のため無駄なコストを大幅に

削減できる。さらに柔軟かつ無制限にストレージ領域を拡張でき、サービスのログ保持期間に縛られず長期のログ保管も可能だ。さらにログの一元管理により複数の管理画面にログインすることなく容易にログ検索できるといったメリットも生まれる。



ユースケース / Use Case

テーマを実現による業務の変化・メリットをご紹介します

Use Case 01

ログの一元管理

各サービスのAPIを利用してクラウド型ストレージにログを収集・蓄積。これにより複数の管理ツールを立ち上げる必要はなくなり、一元的なログ検索・管理が実現できる。さらにサービスごとに異なるログの保持期間からも解放され、ログ管理にかかる稼働、コストを抑制する効果も生まれる。



リファレンスアーキテクチャ / Reference Architecture

テーマを実現するシステム構成をご紹介します

アーキテクチャ上のポイント

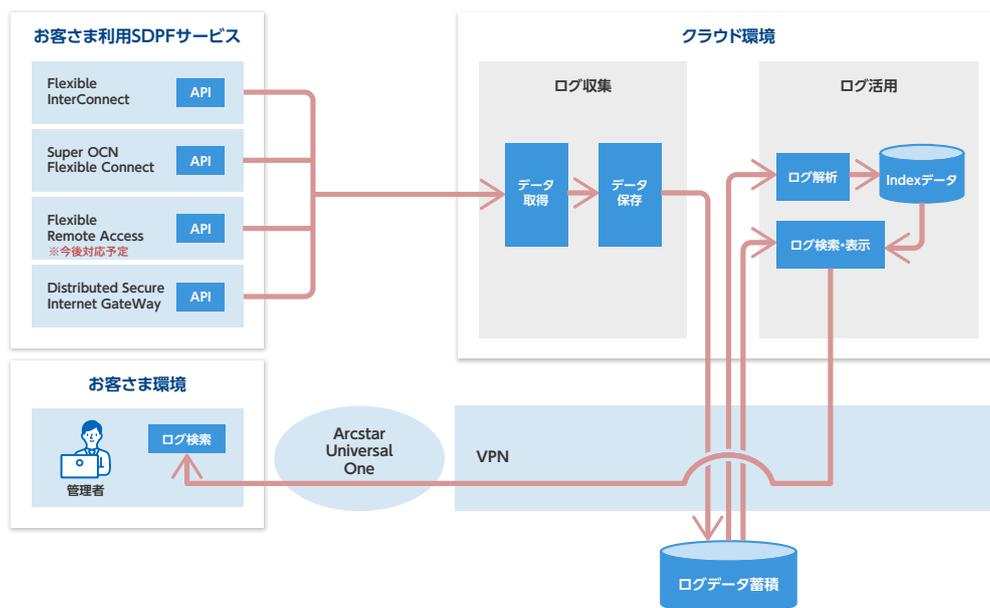
Point

本構成のポイント

- 自動的に領域拡張を行うクラウド型ストレージで使用したリソースのみの課金となる。
- 各サービスのAPIを利用することで簡単にログの取得が可能になる。
- ログを格納する際に必要な情報を付与し、検索条件として使用できる。

導入効果

- クラウド移行による保存にかかるコスト削減
- API の利用によるログ取得の簡易化
- 一元的なログ検索による管理の効率化



[詳しくはこちら](#)





本件の詳細につきましては、
お気軽にNTTコミュニケーションズにお問い合わせください。

[お問い合わせはこちら](#)